

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点⑱〉

三郷学の視点

3.今を知る(道路)

現在、三郷市には常磐自動車道などの高速道路をはじめ、国道、県道、市道などの道路があり、これらを合計すると2,643路線、約550キロメートルの延長になります。

このうち、市が管理する道路の面積は約3平方キロメートルで、三郷市の面積の約1割を占めています。舗装状況は約85%となっており、市では未舗装や老朽化した道路について順次整備しています。

昭和40年代の急激な都市化による宅地の造成に伴い多くの道路も整備されました。近年では、三郷中央地区やインターチェンジ周辺地区の土地区画整理事業や新三郷らシティの大規模開発事業に伴い、約42ヘクター

ルの道路用地が新たに増えています。交通量の多い主要な幹線道路や住宅地の中の生活道路など目的に応じた道路が整備され、安全性・利便性の向上が図られています。

市で管理する道路には橋梁きょうりょうも含まれています。近年、市では寄巻橋やあじさい橋を整備しています。市内には橋長が15メートル以上の橋梁が約50橋あり、短い橋梁も含めると200橋以上の橋があります。老朽化が進んでいる橋もあることから、市では安心・安全の確保のため橋の長寿命化に取り組んでいます。

また、道路には市が管理するために市道0101号線といった路線番号がつけられていますが、成田山新勝寺の参詣に向かう人々が歩いたと言われる「成田通り」のよう

に市民の公募により愛称がつけられている道路も20路線あります。名前を調べてみることで、その地域の歴史を知ることができ、地域のこれからの進むべき方向性がみえてくるかもしれません。



整備された道路